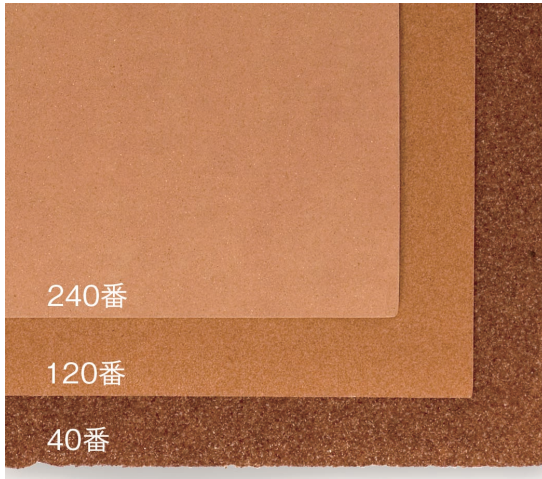
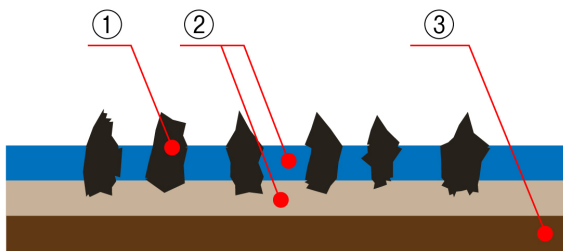


# サンドペーパー

さんどペーパー



## サンドペーパーの構造



- ① 研磨材 … ガーネットなどの天然研磨材や（砥粒） 人造研磨材があります。
- ② 接着剤 … 研磨作業に耐えられるように二種類の接着剤が使用されています。
- ③ 基 材 … 紙製の他に布製もあります。



サンドペーパーを裏返して定規をあて、手で切り取ります

## 概要

サンドペーパーは、基材となる紙や布の表面に接着剤で研磨剤を定着させた工具です。木材やプラスチックなどの表面や角をサンドペーパーで擦（こす）ることで、削ったり滑らかにしたりします。

サンドペーパーには、紙ヤスリや布ヤスリ、耐水ペーパーなどがありますが、一般的には紙ヤスリのことを呼びます。紙ヤスリは、クラフト紙などの非耐水性の紙でできており、必要に応じて磨く素材の形状に合わせてカットしたり、折り曲げたりして使用できることが大きな特長の一つです。研磨剤が落ちて効果が薄くなったら、取り替えます。使い方に決まりは無く、平面を磨く場合は、持ちやすい大きさの木片にサンドペーパーを巻きつけて磨くと、均一な仕上げが容易になります。細かい部分は、棒状のものに巻きつけたり貼ったりして使用できます。なお、サンドペーパーを取り付けて使用する、ハンドサンダーあるいはサンドペーパーホルダーなどと呼ばれる専門の道具も市販されています。また、小さな材料を扱う時は、サンドペーパーを平坦な板に画鋸などで固定し、素材の方を動かすと作業が容易になります。

研磨剤の粒の大きさは「粒度」と呼ばれ、目の荒さは「番手」で表されます。最も目が荒い30番から40・60・80・100・120・150・180・240番…と、目が細かくなっていきます。おおむねの目安として、100番以下のものは、粗削りをしたり、表面の汚れを削ったりする時に使用します。100～200番では粗削りをした面を整え平らにします。200～400番で仕上げをし、さらに滑らかに仕上げたい場合には400番以上のもので磨くといったように、荒いものから徐々に3段階から4段階ほどに分けて作業していきます。サンドペーパーを切断する際は、刃が傷むのではさみやカッターは使用せず、サンドペーパーを裏返して、定規をあて手で切り取るとよいでしょう。サンドペーパーは、ホームセンターや工具店で入手することができます。

あ  
か  
さ  
た  
な  
は  
ま  
や  
ら  
わ  
A  
B  
C  
D  
E  
F  
G  
H  
I  
J  
K  
L  
M  
N  
O  
P  
Q  
R  
S  
T  
U  
V  
W  
X  
Y  
Z  
数字